

平成 27 年度を迎えて

国大化学会会長 平井太一郎（昭和 41 年 2 部応化卒）

国大化学会会長に就任して 2 期（4 年）がたちました。会長として交代の年であり 1 年前から後任者を選んできましたが、後任者の都合により 29 年からは会長として行動できるが今年は無理とのこととなり、会長候補者がいない状況になりました。諮問委員（樋口修一郎前前会長、米屋勝利前会長）に相談のうえ、私がもう一期務めることに 3 月の役員会で決まり総会で承認されました。新しい役員は別表（45 頁）に決まりました。学内人事による変更、新 4 年生による学生役員、新たに 4 人の役員が加わりました。平成 27 年、28 年はこのメンバーで進めていきます。よろしくお願いいたします。

国大化学会の活動の 2 本柱は**教育研究支援と会員相互の交流**です。

教育研究支援は学生支援を中心に行っていて、ますます充実してきています。我々同窓会は化学を学んだ先輩として、学生が将来化学研究者・技術者として社会に役立つようになることを望んでいます。国大化学会は 2007 年の発足当時から同窓会の会計を一般会計と**教育研究支援基金**に分けて、学生支援は教育研究支援基金で運営されてきました。

この基金は統合前（2007 年）の同窓会の先輩、あるいは企業から寄せられた寄付を中心に、プールされていた資金を教育研究に特化した基金としてスタートしました。

今後は皆様の寄付でこの基金を支えていくようにと考え、昨年度から皆様の寄付を一般会計からこの基金に組み入れました。また、今年度からは皆様の寄付は教育研究支援基金会計に直接計上いたします。学生を支援して、学生が社会に役に立つ人間として成長して卒業していくことは先輩としての喜びであると同時に責務と考えています。

新しく始めた学生支援は「**ドクターコーススタートアップ支援**」です。今後の化学の発展には優秀な化学の研究者が必要なのは言うまでもありませんが、ドクターに進む学生が減少してきています。理由は



いろいろありますが、経済的な理由も一つです。会としてこのような学生をスタート時に援助してドクターコースに進めるように、この援助を始めました。今年度はドクターコースに進んだ学生の中から審査して 5 名が選ばれドクターコーススタートアップ支援を受けられることになり、3 月の卒業記念パーティーの席上で授与しました（1 人 30 万円）。その他の学生支援は次の通りです。

- 学会参加費の補助（昨年の実績 46 人）
- 化学コース配属懇親会（学部 2 年生）
- 成績優秀者表彰 5,000 円図書券（2 年生～4 年生 昨年の実績 11 人）
- 社会・企業の勉強
 - * O B 企業訪問交通費
 - * O B ・ O G と語る会
- 就職支援（大学と共同）

27 年国大化学会総会

今年度は平成 27 年 6 月 20 日（土）横浜崎陽軒本店で開催いたしました。同窓委員会主催の「研究室ポスター発表」を 13 時 30 分から 15 時 45 分まで開催いたしました。現役の学生も多く参加していました。今後の研究室選びや他の研究室の様子など、参考になったことも多かったと思います。

16 時から総会に入り 27、28 年の役員の承認、26 年度の活動報告・決算報告、27 年度の活動計画・予算案等が審議されました。総会終了後、長谷部新学長からご挨拶いただきました。本間グループリーダー（柳川先生と同級生）の司会で講演会に入りました。

今年の特別講演は慶應義塾大学訪問教授柳川弘志先生（昭和44年2部応化卒）です。先生は東北大学で理学博士、その後三菱化学生命科学研究所、慶應義塾大学理工学部生命情報学科教授を経て現在に至っています。遺伝子間のネットワークの解析、新しいたんぱく質を人工的に創ることをテーマに研究されている、生化学者です。今回の話は生化学を研究されてきた先生の研究を“よきせぬ展開、だから研究は面白い”という観点から豊富な経験をもとに話をされました。特に参加していた学生には有意義なお話で、参考になったものと思います。

懇親会は三工会上ノ山会長、横浜工業会井上理事長、名教就美会永井会長にご挨拶をいただき、樋口先輩の乾杯で懇親会に入りました、今年も講演会、懇親会は三工会が参加されました。

横浜国立大学校友会

・昨年10月に正式に発足しました。今年の新入生から校友会費（20,000円）を徴収して校友会メンバーになります。他の大学でも校友会費と同時に同窓会費を徴収していることを参考に、当校も同じシステムで校友会費徴収と同時に同窓会費（理工学部は30,000円）の徴収を行いました。これに関係して国大化学会も会則の一部変更を今年の総会で行いました。昨年度までの国大化学会の会費は次のようになっています。

正会費 1年2,000円

学生会費 在籍期間（学部）2,000円

ただし卒業時に10,000円徴収

（学生会費2,000円+正会費4年分）

今年の入学生は入学時に30,000円支払っていますので今年の新入生が卒業する年（平成31年）までには同窓会費の会則の変更をする必要があります。

ホームカミングデー

昨年までは、同窓会と大学の共催でした。今年から、校友会と大学の共催となり

平成27年10月31日（土）に開催されます（大学祭と同じ日）。大学祭（常盤祭）との同日開催は初めてです。今までのホームカミングデーとは違った楽しみも出来るものと思います。

多くの参加をお願い致します。

国大化学会今後の課題と改革

- ・総会
総会の参加者は年々減少しています。会場（横浜崎陽軒、大学）等の問題があるのではと考え会場を大学、横浜崎陽軒と変え、開催してきましたが、参加者の減少に歯止めがかかっていないのが現状です。
- ・同窓委員会
同窓委員会は総会の当日、総会前に会議・行事等を行ってきましたが、同窓委員の参加も少なく、同窓委員の同窓会での位置づけ・役割が明確になっていないのが一因と考えています。
- ・会員情報システム「Yokochem Network」
正式に立ち上がりましたが、今後の会員相互の交流の有効利用について、マニュアル等での周知が十分とは言えません。

これらの課題について、鈴木副会長、小野塚企画Gリーダー、平野総会・懇親会Gリーダーが中心になり、各グループのメンバーの意見を取り入れて検討していくこととしました。

この改革は10月の役員会で論議して、順次実行に移していく予定です。

平成28年の総会

場所は大学で行います。開催日は6月前半を予定しております。先に書きました検討を生かして、新しい総会を目指して開催する予定です。

副会長就任のご挨拶

国大化学会副会長 跡部 真人（化学・生命系学科化学 EP 代表）

国大化学会会員の皆様、こんにちは。

わたくしは平成27年度より化学・生命系学科化学 EP 代表を仰せつかっております跡部と申します。化学 EP 代表は現職の教職員正会員を代表して、国大化学会副会長を務めさせていただくことになっております。会員の皆様のご支援・ご協力を仰ぎながら現職の教職員ならびに現役学生の架け橋としての責任を全うできるよう精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。

平成27年6月20日（土）横浜の崎陽軒本店において、第9回国大化学会総会が開催され、平成26年度の活動状況、平成27年度の活動計画が報告されました。これまで現職の教職員として正会員の末席に座しているだけでしたが、改めて幅広い同窓会活動の内容・充足ぶりを伺い知ることができ、感銘を受けた次第です。現職の教職員正会員代表として副会長を仰せつかったことを良い契機と捉え、改めて大学と同窓会組織のかかわりについてわたくしなりに纏めてみたいと思います。

大学の社会に対する役割や貢献が強く問われるようになった今日において、同窓会には大学と社会との架け橋として、情報発信や人的交流はもとより学生の就職活動や卒業後の社会人活動を助ける役割を果たすことが求められるようになってまいりました。

こうした背景を受けて、平成26年10月には全学一体の同窓会組織である「校友会」が設立され、また、平成27年3月には理工学部同窓会連合を解消し、新たに「名教自然会」も発足しました。国大化学会も本学と卒業生とのネットワーク・企業社会との実践的連携の強化を図るために、これら同窓会組織と連携協力しながら、その活動をさらに拡充しております。

大学は主として「研究」と「教育」を行う機関ですが、これに同窓会組織が担う「在学生の社会参画・卒業生の人的交流」が加われば、大学の存在は非常に磐石なものとなります。国大化学会では、「学会参加補助」や「ドクタースタートアップ支援」などの金銭的援助もさることながら、「就職準備講座（OBと語る会）」や「先輩訪問（学部4年生）」といった活動を通じ、在学時から先輩と後輩の交流を緊密にして研究室の枠組みを越えた人脈を育成させ



た上で、社会に送り出すような実践的な同窓会教育も実施しております。

社会とは個人の尊厳の上に成り立つものではありませんが、決して個の力だけではものごとを成し得ることはありません。大きな才能ほどその開花には多くの人々の支援が必要だと思われまます。同窓会教育とはそれを実践的に教育する取り組みであり、年代を超えて助け合うことの大切さを体感させるものと考えられます。このような同窓会の意義は在学中の学生には、なかなか理解してもらえないものかもしれません。組織への帰属意識についても同じことが言えますが、やはり年齢を経て社会全体をある程度、俯瞰出来るようにならないと同窓会の意義や組織への帰属意識を理解、認識することは難しいように思われます。だからといって在学時からの同窓会教育を怠ってしまえば、卒業後にいくら同窓会の意義を呼びかけても、その意義を深く省みてもらうことすら望めないかもしれません。

上述のように国大化学会ではこれまでに金銭的なサポートから実践的な同窓会教育までの幅広い活動を行ってまいりました。また、今後は大学の就職支援体制への参加や会員情報システム構築も予定されており、在校生へのさらなる認知度の向上が図れるのではないかと期待しております。こうした地道ながらも着実な同窓会活動によって、今後は卒業生が後輩学生を支援することに繋がっていくはずであります。

最後になりますが、国大化学会には今後とも大学教育の一環として在学生の研究室を越えた交流や卒業生・関係者との交流を推進していただき、化学 EP のみならず本学のさらなる発展に対し、引き続きお力添え頂きたいようお願いする次第であります。